

農 林 水 産 物 の 生 産 等 概 況

〔令和2年6月26日〕
農業経営発展課

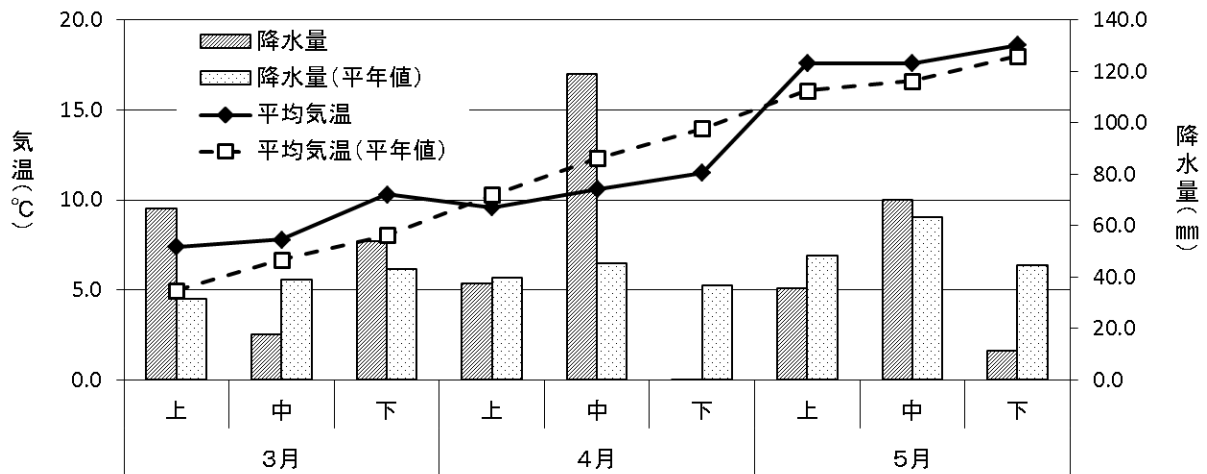
I 気象概況

1 気温

平均気温は3月と5月は平年よりも高く、4月は平年よりも低く推移した。

2 降水量

降水量は3月、4月は平年よりも2～3割多く、5月は平年よりも2割程度少なく推移した。



3月から5月の気温及び降水量の推移

II 農産物

1 普通作物の生産状況

(1) 水稲

5月末現在の主食用水稲作付面積は21,950haと、昨年より作付が増加している市町も見受けられるが、全体では250ha減少するものと見込んでいる。

非主食用水稲作付面積は1,400haと、ほぼ前年並みを見込んでいる。

現在、田植えはほぼ終了し、生育は概ね順調である。

(2) 大豆

県内の大豆作付面積は、三次市や世羅町を中心に500haと、昨年並みと見込んでいる。

現在、播種作業が行われているところであり、7月下旬に終了する予定である。

2 野菜の生産状況

(1) キャベツ

庄原市、北広島町及び世羅町を中心に、6月下旬から7月をピークに出荷を計画している。生育は4月の低温で一部遅れているが概ね順調である。

(2) トマト

県南部では、呉市や尾道市を中心に冬春トマトの生産が行われている。生育は順調で、出荷は12月から始まり7月まで続く計画である。

県北部では、神石高原町や庄原市、北広島町を中心に夏秋トマトの生産が行われている。生育は順調で、6月上旬から出荷が開始されている。

(3) 青ねぎ

安芸高田市を中心に生産が行われ、周年出荷されており、生育は順調である。

(4) ほうれんそう

広島市や庄原市を中心に生産が行われており、生育は順調である。

(5) アスパラガス

三次市や世羅町を中心に生産が行われている。生育は順調で、出荷は3月上旬から始まり、10月まで続く計画である。

3 果樹の生産状況

(1) うんしゅうみかん

結果樹面積は昨年より80ha減少し、1,830haで生産が行われている。

本年の予想生産量は22,086t、前年比79%の見込みで、同じ裏年である一昨年と比較し93%を見込んでいる。

生育は、平年より2日程度早く進んでいる。

(参考) 本県産うんしゅうみかんの予想生産量(5月26日時点)

区 分		生 産 量			対 比	
		令和2年産 予想(t)	令和元年産 実績(t)	平成30年産 実績(t)	R2/R1 (%)	R2/H30 (%)
う ん し ゅう み か ん	極早生	3,328	4,870	3,200	68	104
	早 生	8,362	11,018	9,188	76	91
	普 通	10,396	12,100	11,300	86	92
	合 計	22,086	27,988	23,688	79	93

※平成30年・令和元年産実績は農林水産省統計による。

令和2年産予想は農業経営発展課調べ(平成30年産実績に令和2年産の結果樹面積の増減率を乗じて算出)

(2) レモン

植栽面積は昨年より20ha増加しており、300haで生産が行われているものと見込んでいる。令和元年産の生産量は約6,400tと推計している。

(3) ぶどう

結果樹面積は微増の279haとなっており、生育は、平年並みから平年より遅い状況にある。

尾道市産のデラウェアは、前年より4日遅く、5月25日から、また尾道市産及び福山市産のピオーネは、前年より1日早く、6月22日から出荷が始まっている。

(4) なし

結果樹面積は現状維持の 138ha となっており、生育は平年並みであるが、世羅町の豊水の予想生産量については、開花期の低温により、着果不良となり、前年比 76%を見込んでいる。

(5) りんご

結果樹面積は微増の 85ha となっており、生育は 3 日程度遅い状況にある。

4 花き（きく）の生産状況

県北部では三次市や庄原市、南部では江田島市を中心に生産が行われており、生育は北部において、一部、霜の影響があったが、概ね順調である。

Ⅲ 畜産物

1 子牛取引の状況

子牛取引頭数は、前月比及び前年同月比ともに増加している。全国的な肥育用子牛の供給不足は依然続いており、肥育農家の引き合いが強く、県外購買率は高い割合で推移している。しかし、新型コロナウイルス感染症による全国的な経済活動自粛の影響から、黒毛和種の子牛価格は前月比では上昇しているが、前年同月比では著しく低下している。

三次子牛市場における黒毛和種子牛取引頭数及び価格の状況 (R 2. 5 月)

頭	取引頭数		県外 購買率 %	千円/頭	平均価格		(参考) 全国平均 価格 千円/頭
	前月比 %	前年同月比 %			前月比 %	前年同月比 %	
290	117	120	46	597	106	79	595

2 生乳生産の状況

生乳生産量は、前月比及び前年同月比ともに減少している。

生乳生産の状況 (R 2. 4 月)

t	生産量	
	前月比 %	前年同月比 %
4,115	95	99

(注)「牛乳乳製品統計(農林水産省)」

IV 林産物

1 木材価格

(1) 素材価格

5月は4月に比べ、スギ中丸太は横ばい、ヒノキ中丸太は10%安となり、米マツ丸太は横ばいとなった。

また、前年5月に比べ、スギ中丸太は4%安、ヒノキ中丸太は18%安、米マツ丸太は3%安となった。

(2) 製品価格

5月は4月に比べ、スギ正角、ヒノキ正角ともに横ばいとなった。

前年5月に比べ、スギ正角、ヒノキ正角ともに横ばいとなった。

(単位：円/m³)

年	素材価格			製品価格	
	スギ 中丸太	ヒノキ 中丸太	米マツ 丸太	スギ 正角	ヒノキ 正角
平成28年	12,292	14,875	25,768	53,083	60,167
平成29年	12,542	14,292	26,101	55,667	63,500
平成30年	12,750	16,208	30,210	56,000	65,000
令和元年5月	13,000	16,500	28,440	56,000	65,000
令和2年4月	12,500	15,000	27,720	56,000	65,000
令和2年5月	12,500	13,500	27,720	56,000	65,000

(注) 素材価格及び製品価格は日刊木材新聞「広島標準相場」

素材価格：国産材は市売値、外材は問屋における店頭渡し価格

製品価格：小売業者への店頭渡し価格

平成28年～30年は年間平均価格

2 木材取扱量

県内の木材市場のうち、最も取扱量が多い広島県森林組合連合会三次木材共販所における月間取扱量は、景気の先行き不安や営業活動の制約などから住宅着工の遅れが始め、これにより、一部工場が減産していることから、3月以降減少している。

広島県森林組合連合会三次木材共販所における取扱量

(単位：m³)

年	樹種	木材取扱量	内訳	
			スギ	ヒノキ
平成31年3月		6,569	1,438	5,130
平成31年4月		7,001	1,647	5,354
令和元年5月		4,199	1,696	2,504
令和2年3月		4,787	827	3,960
令和2年4月		4,011	745	3,266
令和2年5月		2,774	1,019	1,755

V 水産物

1 水温

6月上旬の県内海域の水温は17.7～21.9℃で、平年差は-0.3～+1.4℃であった。

	広島湾	安芸灘	備後灘
6月上旬の海域の水温	19.5～21.9℃	17.7～18.5℃	19.2～21.5℃
平年差	-0.3～+1.4℃	+0.5～+1.1℃	+0.7～+1.2℃

2 漁獲状況

6月10日から、いわし網漁が解禁となり、広島市場への鮮魚出荷や広島県漁業協同組合連合会の煮干し共販が開始された。

煮干し共販の出荷数量は前年同期比44%増となったが、平均単価は67%となっている。

広島県漁業協同組合連合会の煮干し共販数量

t	出荷数量		平均価格	
	前年同期比	%	円/kg	前年同期比
23.2		144	494	67

2 かきの養殖状況

(1) 中西部

令和元年度漁期のかき養殖は、10月1日から出荷を開始し、5月末までにほぼ終了し、平均むき身重量は15.3g/個（平年比99%）で、平年並みとなった。

令和2年度のかき採苗対策については、昨年と同様に、国、県、広島市などが連携して、かき幼生の分布等を調査し、調査結果を直ちに漁業者へ情報提供するとともに、6月中旬までに生産者が産卵用の母貝筏を広島湾北部海域へ移動するなど、種苗の安定確保に向けた取組を進める。

(2) 東部

三倍体の夏期生食用殻付きかきは順調に生育しており、6月15日に水揚げが開始され、浄化処理された殻付きかきが、22日から出荷されている。